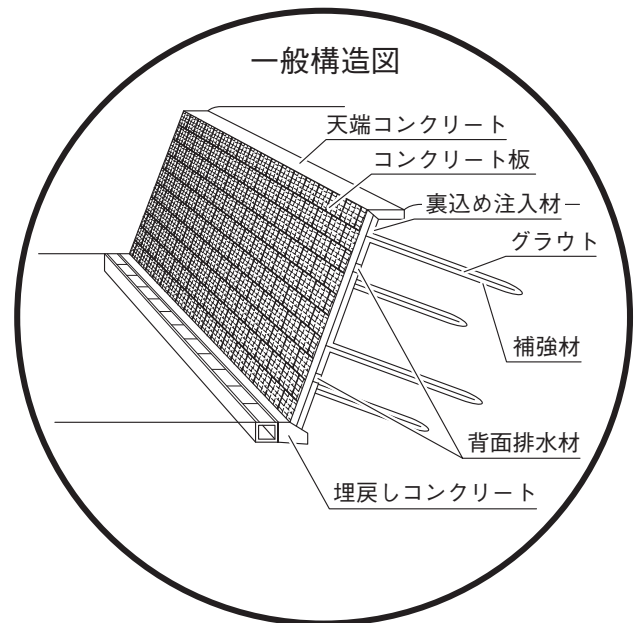


## PAN WALL工法とは

パン (Panel And Nail) ウォール WALL工法は急勾配斜面安定工法、切土補強土工法の理論に基づく工法です。補強土工法の表面保護として、プレキャストコンクリート板を使用して、急勾配（1分～5分）化により自然法面を可能な限り残し、逆巻き工法を基本とした安全性の高い工法です。

### 逆巻き工法とは

切土法面を施工する際、高さ1.2mごとの補強土壁を一段ごと仕上げ、上から下へ順次施工を行っていく安全な工法です。ですから、逆巻き施工により施工中の地山のゆるみ防止と、土砂崩壊事故防止が可能です。

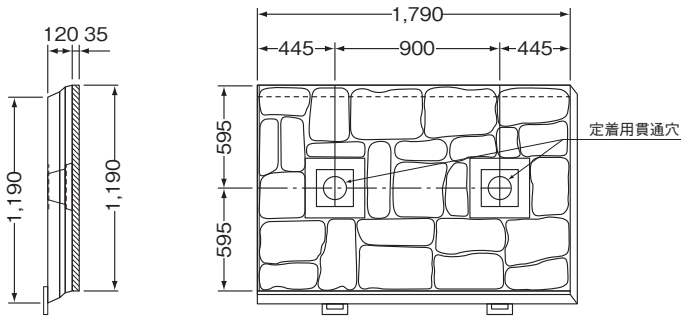


特許第2530565号

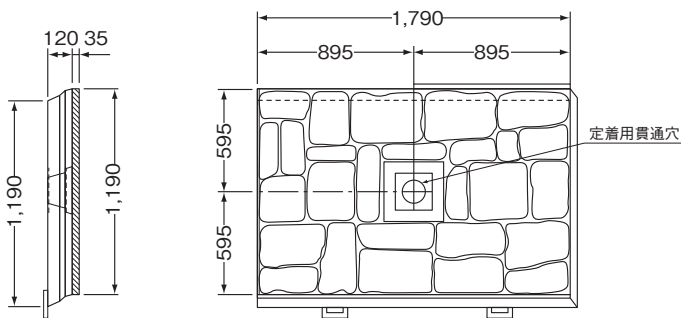
## 工法の特徴

- 1 急勾配（1分～5分）化による長大のり面の低減と支障物件の保護。
- 2 表面保護工のプレキャスト化による、品質の向上と、工期短縮と省力化。
- 3 構造物を上から下へ仕上げる逆巻き施工を基本として、施工中の地山のゆるみ防止と崩壊事故防止。
- 4 意匠デザインの多様化による景観対応。

パネルの仕様

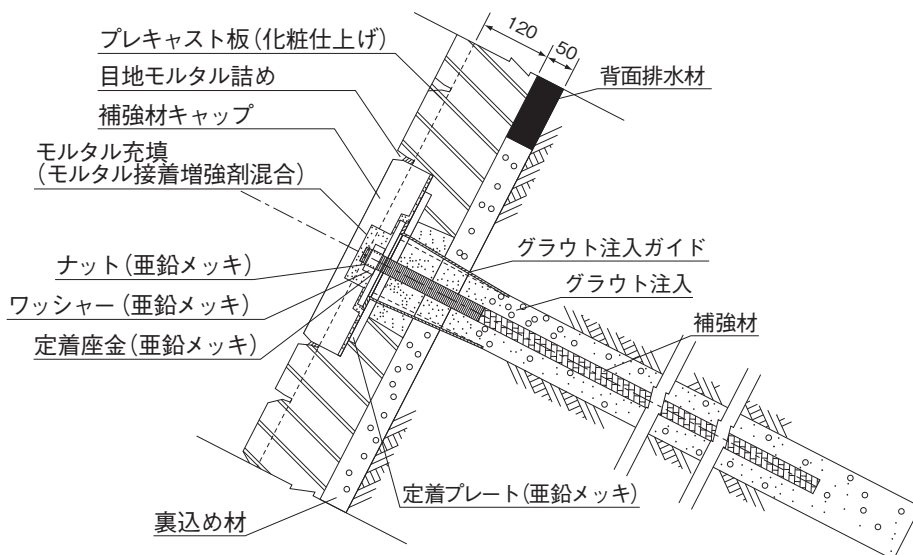


呼び名	寸法 (mm)	参考重量 (kg)	備考
Dタイプ (2穴)	1790×1190×155	760	



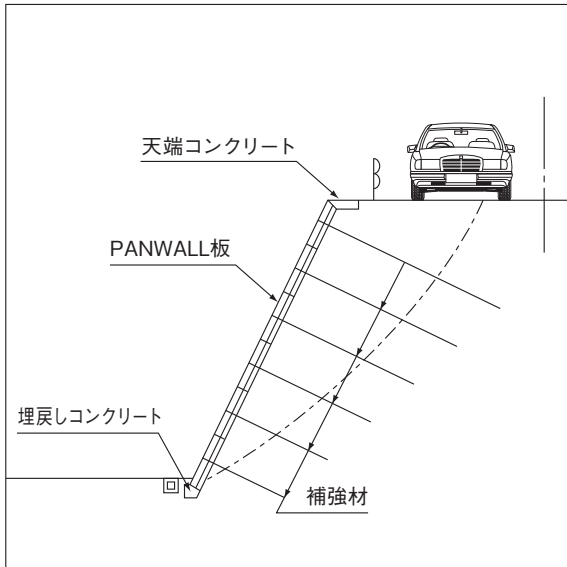
呼び名	寸法 (mm)	参考重量 (kg)	備考
Sタイプ (1穴)	1790×1190×155	760	

定着部(詳細図)



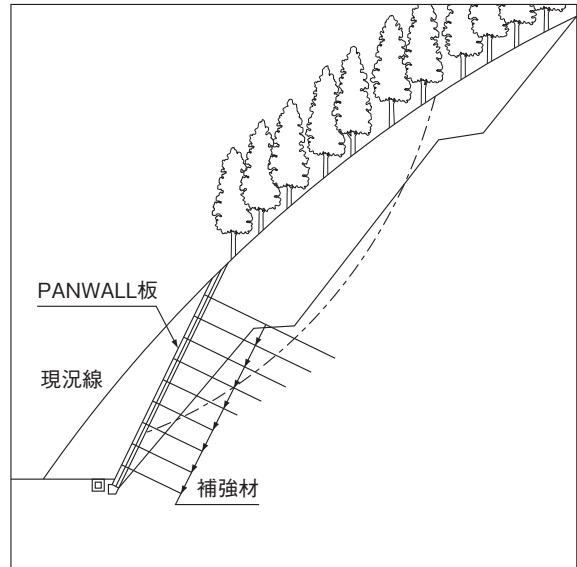
主な用途

既設道路・構造物・境界の保護



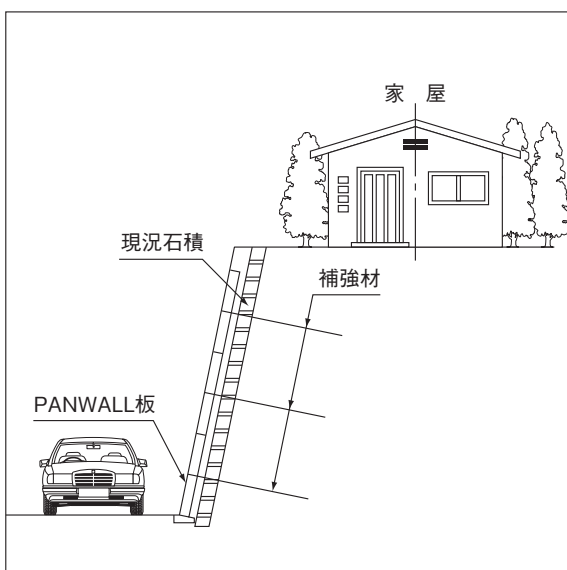
道路の新設工事や拡幅工事等で斜面を切土して構造物を構築する場合に、上部に支障物があり容易に移設出来ないときや、従来の擁壁、ブロック積み等のような背面掘削を必要とする方法では対応出来ないときに、逆巻き施工や急勾配化することで対応が可能である。

長大法面の低減 (自然法面の保護)



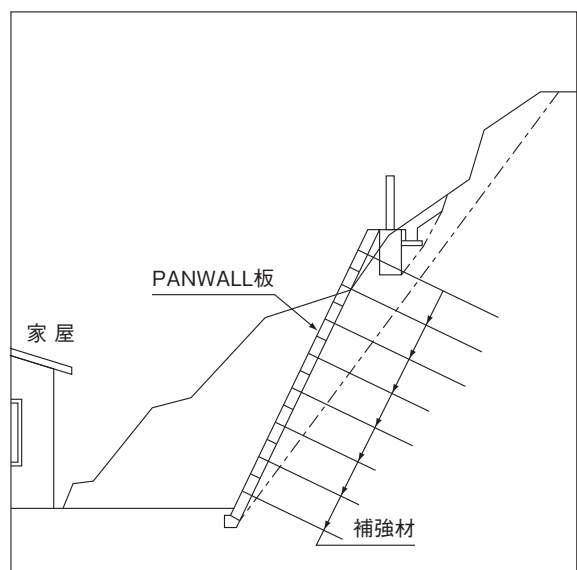
山間部などに道路を構築し長大法面となる場合、自然斜面を最大限残す必要があるケース、また掘削に伴う残土量の低減の必要があるケースに有効である。

既設石積・風化岩盤の補強



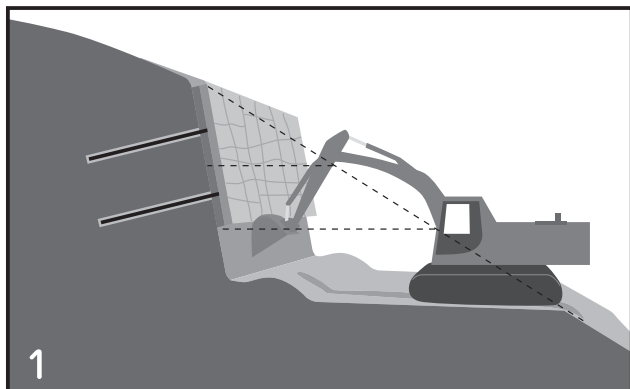
道路に面した既設構造物（石積み、ブロック積み）が老朽化したり変状が生じた場合に既設石積み（既設ブロック積み）を残したままで補強ができるので、影響（廃棄物の減少を含め）を最小限に抑える目的で有効である。

急傾斜地崩壊対策事業



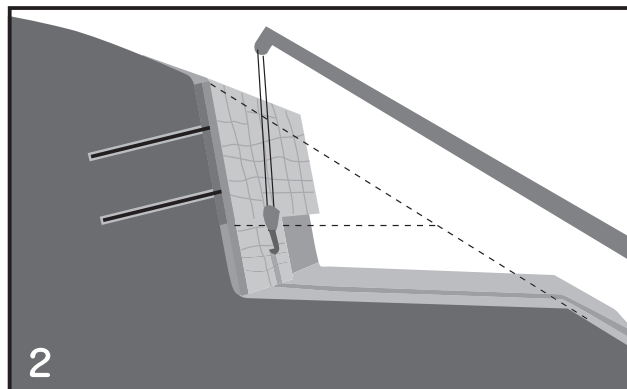
急傾斜地崩壊対策事業において、従来の擁壁、ブロック積み等のような背面掘削を必要とする場合に上部の用地境界、支障物に影響がでるケース、また施工中の掘削法面が降雨等により崩壊の危険があるケースに有効である。

施工手順



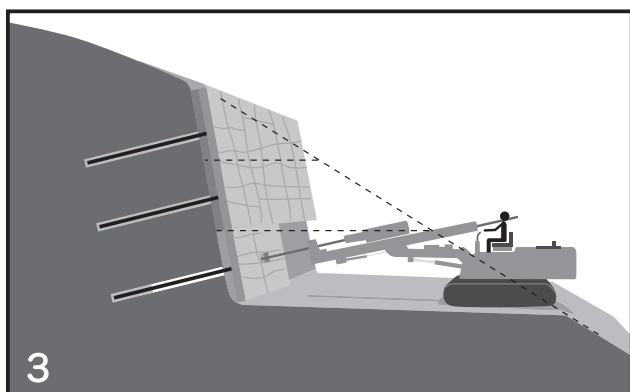
掘削・法面整形

バックホーにて、パネル1枚分（約1.2m）掘削します。その後に背面排水材をセットします。



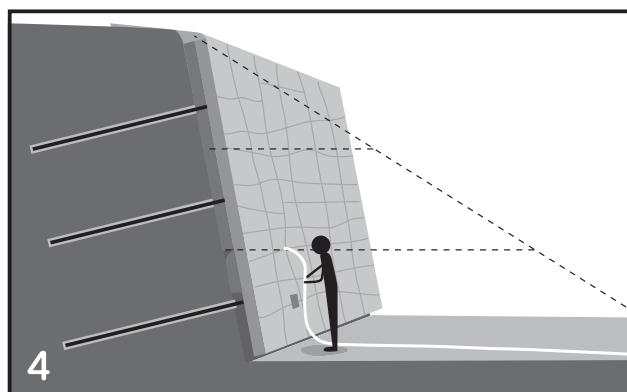
コンクリート板据えつけ

専用の吊具を使用して、所定の位置にコンクリート板をセットします。



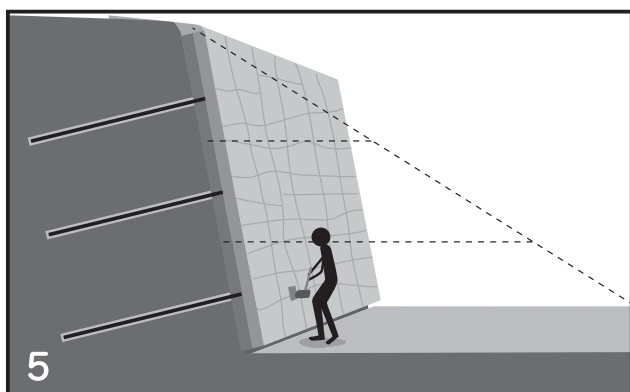
補強材打設・グラウト

ロータリーパーカッション等を使用して削孔し、補強材を挿入した後、グラウト注入を行います。



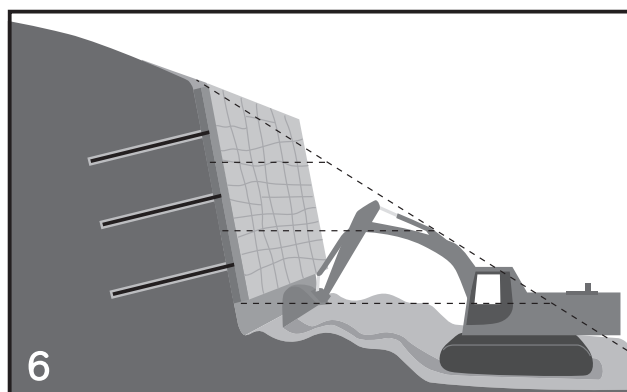
裏込め注入

コンクリート板と地山との隙間に、裏込め注入材を注入します。



補強材頭部定着

トルク・レンチにより補強材頭部を定着し、その後にキャップを装着します。



次段掘削

次段以降は1～5の繰り返し作業となり、最終段施工完了後に、埋め戻しコンクリートを施工します。